

2025（令和7）年の大阪経済

－緩やかな回復基調だが力強さを欠く一年－

商工労働部（大阪産業経済リサーチセンター）は、府内の経済動向について四半期ごとに『おおさか経済の動き』としてとりまとめています。このたび、2025（令和7）年の年間の経済動向を『2025（令和7）年のおおさか経済の動き』として発行しました。その概要は以下のとおりです。

2025年の大阪経済は、緩やかな回復基調にあるものの力強さを欠く一年であった。個人消費は年後半に持ち直し、雇用情勢も底堅く推移した。一方、民間設備投資は、中小企業では慎重姿勢が続き、公共投資は減少した。外需は円安の影響を背景に名目上は堅調であったが、実質的な需要の力強さには限界がみられ、生産活動の回復も限定的であった。こうしたことから、2025年の大阪経済は、内需の下支えはみられたものの、生産や投資などでの回復の広がりには課題が残る状況で推移した一年であった。

【目次】

要約

第1章 緩やかな回復基調だが力強さを欠く一年

1. わが国の実質経済成長率は前年を上回る
2. 大阪府の景気は弱い動きで推移
3. 需要は持ち直して推移
4. 生産は弱含みで推移
5. 雇用は底堅く推移
6. 企業の業況は緩やかな持ち直しが続いた

第2章 2025年の経済動向

第1節 需要は一部に弱さがみられるものの緩やかな回復が続いた

1. 個人消費は総じて緩やかな回復が続いた
2. 住宅投資は弱含み
3. 民間設備投資は二極化しつつ底堅く推移
4. 近畿圏の輸出入額は、ともに2年連続のプラス
5. 観光需要は、大阪・関西万博閉幕後に伸び悩んだ

第2節 産業活動は、弱含みで推移

1. 生産活動は、4年連続の低下
2. 求人数は緩やかに減少
3. 消費者物価、国内企業物価ともに上昇
4. 大阪の企業倒産は件数、負債総額とも減少

第3章 2025年の企業動向

第1節 企業の業況は年後半に弱含み

1. 企業の業況は、年後半に弱含みで推移
2. 営業利益D Iはやや低下傾向で推移、資金繰りは順調な企業割合が上回る
3. 雇用不足感は高水準であったが、雇用予定人員は弱含みで推移

第2節 中小企業の業況は、年間を通して一服感が続いた

1. 出荷・売上高は低下傾向で推移、営業利益判断は前年を下回った
2. 業況は一進一退で推移し、原材料価格や仕入単価の上昇が大きな課題

主要経済指標